



ICT を利用した新成長戦略

■ 原口一博

明治時代、私たちの先達は、歩いて行ける距離に3つのものを作りました。人々の安全を守る派出所。誰もが教育を受けられる学校。そして、地域のコミュニケーションと生活を保障するための郵便局。地域社会におけるこの3つの拠点が、日本社会の発展を支える基盤となりました。

私は、総務大臣のときに7つの改革を世界に向けて発信しました。その中の1つに「光の道」構想というものがあります。これは、国内すべての世帯でブロードバンドサービスの利用を実現するインフラ整備事業です。「光の道」を完成させることによって、①教育を中心に、経済社会システムを抜本的に改革し、豊かな生活、持続的な経済成長を実現する、②新たなイノベーションを生み出す基盤を構築し、国際競争力を強化するといった戦略を打ち出しました。

ICTを利用した新成長戦略は「原口ビジョン」の中で「日本×(バイ)ICT」戦略として、単にIT業界に限定せず、さまざまな分野でICTを活用することにより、今後10年間の潜在成長率を年平均2.6%まで引き上げるという目標を掲げました。たとえば、農林水産分野においては、センサや携帯電話網を活用した、圃場(ほじょう)・ハウスの管理・監視・農作業記録等の自動化。また、医療分野においては「いつでも、どこでも、だれでも」同じ医療を受けられる「ユビキタス医療」の実現など、ICTを活用することによって労働生産性を高め、

■ 原口 一博
衆議院総務委員長

元総務大臣。東大卒。松下政経塾、佐賀県議会議員を経て、衆議院議員へ（現在 5 期目）。2009 年には総務大臣、内閣府特命担当大臣（地域主権推進担当）を務め、インフラ整備事業「光の道」構想を提唱。著書「ICT 原口ビジョン」他多数。



30 兆円を超す既存産業での GDP 増加と、70 兆円を超す新規市場の創出を見込んでいます。

「日本×ICT」戦略の中には、「ICT 人材戦略を推進し、2020 年までに 35 万人の高度 ICT 人材を育成する」という項目が含まれています。一般へのブロードバンドインフラの整備が進み、各種産業における ICT の利活用が高まるにつれ、ICT 関連の高度な人材の供給、育成、見える化の重要度が増していきます。国としても、「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」をはじめとする各種 ICT 人材育成支援策を推進し、そこで開発された資産をさらなる普及・発展に繋げるよう、成果の蓄積や公開を進めていくことが求められています。

日本は、このままの経済状況が続くならば、2050 年までに経済大国の地位を失うおそれがあるとの試算が出ています。少子高齢化が進み、人口減少時代へと突入するという人口構成が大きく変化する時代、我が国は、持続可能な経済成長のビジョンを描くことが求められています。私の提唱する「原口ビジョン」では、ICT を利活用した生産性の向上を達成し、国際競争力を持つ強い日本へと変革することを指針にしています。明治の先達たちが残した基盤と同じように、ICT を日本の未来の成長に向けて新たなイノベーションを生み出す基盤として構築していくことが、喫緊の課題だと考えています。

